

香川生物 (Kagawa Seibutsu) (25) : 5-6, 1998.

広島県宮島の小哺乳類

川口 敏

〒760-8522 高松市幸町1番1号 香川大学教育学部生物学教室

Small Mammals on Miyajima Island, Hiroshima Prefecture

Satoshi Kawaguchi, Biological Laboratory, Faculty of Education, Kagawa University,
Takamatsu 760-8522, Japan

金子 (1980, 1992) は、本州・九州・四国の44属島におけるアカネズミ *Apodemus speciosus* とヒメネズミ *A. argenteus* の分布を調べ、一般に面積が10km²以上の島にアカネズミが分布し、150km²以上の島にアカネズミとヒメネズミの両種が分布するという結果を示した。

さて、広島県の宮島は面積30.39km²であり、金子 (1980, 1992) の結果に従えば、アカネズミは棲息するがヒメネズミは棲息しない面積となる。ところが湯川 (1973) によると、『知人の調査した佐伯郡宮島町では、アカネズミが圧倒的に多く80%前後を占め、残りがヒメネズミのようである』と伝聞情報のみを示している。これが事実であれば、金子 (1980, 1992) の結果に反する。そこでヒメネズミ棲息の有無を検討しようと、今回調査をおこなった。本短報は、アカネズミ・ヒメネズミおよびコウベモグラの正式な報告である。

採集は、1996年10月26~28日の2晩にかけ、宮島の標高320~335mの広葉樹林内でおこなった (図1)。26日の午後、林床にパンチュートラップ234個、林内のモグラ坑道の1カ所に筒ワナ2コを設置した。翌日これらをすべて回収し、再びパンチュートラップを同一地点に234個設置した。28日の朝、これらをすべて回収した。ネズミ用のえさとして、1.5cm四方程度に切った市販の薄切り豆腐の油あげを下にひき、その上に1.5cm程度の棒状のドッグフードを重ねた。

採集した小哺乳類は、直ちに頭胴長 (HBL)

・尾長 (TL) ・後足長 (HFL) およびモグラ類については前足長 (FFL) を測定した。頭胴長と尾長の起点は肛門とした。測定にはプラスチック製のさしとディバイダーを用い、目分量で0.1mmまで読みとった。その後、実験室にもちかえり、体重 (BW) を電子天秤 (最小目盛0.01g) で0.01gまで測定した。さらに、モグ

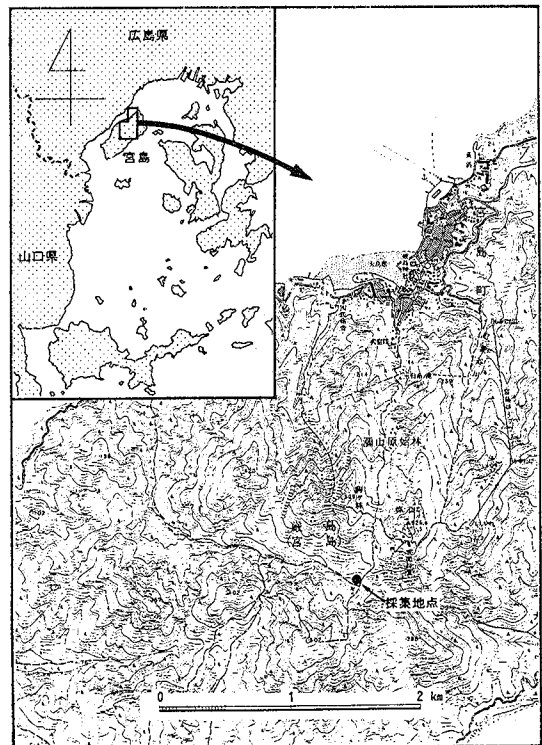


図1. 採集地点

表 1. アカネズミ (As) ・ヒメネズミ (Aa) ・
コウベモグラ (Mw) の計測値

番号	種名	性別	体重 [g]	頭胴長 [mm]	尾長 [mm]	後足長 [mm]
350	A a	♀	17.74	85.6	85.0	19.2
351	A a	♀	15.03	81.4	83.6	18.8
352	A a	♀	12.09+ α	85.6	84.0	18.3
353	A a	♀	19.10	85.0	83.0	17.6
354	A a	♀	16.90	87.5	89.5	18.0
355	A a	♂	13.42	81.9	60.3+ α	18.4
362	A a	♀	17.62	81.6	92.6	19.0
365	A a	♂	15.84	83.8	84.2	19.1
367	A a	♂	14.01	84.0	86.0	18.4
368	A a	♂	18.34	85.7	86.9	19.6
369	A a	♀	18.62	90.2	87.3	19.6
371	A a	♂	18.15	84.5	93.3	19.9
372	A a	♀	12.68+ α	79.4	88.8	19.6
373	A a	♀	18.38	83.1	91.1	19.6
374	A a	♂	17.94	87.6	88.3	19.6
357	A s	♂	49.13	122.0	118.0	25.6
358	A s	♀	45.19	117.8	103.2	23.0
359	A s	♀	47.92	114.9	105.6	24.0
360	A s	♀	44.62	114.7	105.0	24.0
361	A s	♂	40.10	117.0	100.4	24.6
363	A s	♀	45.70	120.6	67.6+ α	24.2
364	A s	♂	38.78	112.6	95.6	23.3
366	A s	♀	49.63	118.9	117.1	24.6
370	A s	♀	43.48	113.7	109.8	23.2
356	Mw	♂	75.60	150.6	21.9	18.6

標本番号350~356は1996年10月27日採集。標本番号357~374は1996年10月28日採集。標本番号356の前足長=18.0 [mm]、頭骨全長=36.6 [mm]。

ラは開腹し、生殖器から雌雄を判別した。また、頭骨をとりだして除肉した後、頭骨全長 (GLS) をノギスを用いて 0.1 mm まで測定した。

捕獲された小哺乳類は、アカネズミ *Apodemus speciosus* 9 頭、ヒメネズミ *A. argemteus* 15 頭、コウベモグラ *Mogera wogura* 1 頭であった。これらの計測値を表 1 に示す。種の同定は、阿部ほか (1994) によった。また、モグラの学名は、Motokawa & Abe (1996) に従った。

ネズミ類が捕獲された地点には偏りが見られ、灌木の密な所やシダの生えたところで捕獲数が

多かった。同島にはニホンジカ *Cervus nippon* が生息し、草を食むため、林床には下生えが少ない。そのため、開けた林床では身を隠すところがなく、ネズミ類は出現しにくいと思われる。また、捕獲したアカネズミの割合は37.5%となり、湯川 (1973) と異なる。この理由は不明である。

今回の採集調査により、アカネズミとヒメネズミの両種が出現する可能性のある島の面積は少なくとも30.39km²以上となる。また金子 (1992) より、ヒメネズミは面積が150km²以下の島でも、金華山 (宮城県) ・粟島 (新潟県) ・西ノ島 (島根県) において出現していることが分かる。よってヒメネズミの出現は、島の面積だけに関係しているのではなく、島の他の環境条件も関わっていると推測される。

コウベモグラは、採集時にはすでに死亡していた。モグラの坑道は林床だけでなく、登山道や遊歩道にも多数見られた。同島における他の食虫類の記録は、著者の知る限りないようである。

今回の報告をまとめるにあたり、香川大学教育学部教授金子之史先生には、ご指導や貴重な文献をいただいた。ここに感謝の意を表す。

引用文献

- 阿部 永・石井信夫・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明. 1994. 日本の哺乳類. 東海大学出版会. 東京. 195pp.
- 金子之史. 1980. 与島および檜石島の小哺乳類について. 昭和54年度一般国道 (香川県側) 自然環境調査報告書: 17-35.
- . 1992. 四国における野ネズミ 3 種の地形的分布: 日本生物地理学会会報 47(16): 127-141.
- Motokawa M. and H. Abe. 1996. Mammal Study 21: 115-123.
- 湯川 仁. 1973. 広島県の野ネズミとその被害. 野ねずみ 118: 6-8.